

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ちゅうりっぷ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和7年2月3日		～ 令和7年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	肢体不自由児の筋緊張の緩和の為に職位全員で心理リハビリテーション(動作法)に取り組んでいる	県内外問わず学びの研修や新技術獲得の為に研修会に参加し学んだ事を職員で共有している	積極的な心理リハビリテーション(動作法)キャンプ(長期研修)等への積極的な参加、他、身体障がい事業所や肢体不自由支援学校との情報共有及び連携、関わる研修会等への積極的な参加。
2	肢体不自由児に特化した事業所の為肢体不自由児に対しての支援(活動、排泄、食事、入浴)が、他事業所より専門的な対応が出来る。	日々の情報収集及び、保護者、学校との情報共有及び連携した支援	他、身体障がい事業所や肢体不自由支援学校との情報共有及び連携、関わる研修会等への積極的な参加。
3	肢体不自由児や、他子ども達でも一緒に参加し楽しめる工夫したレクリエーションや様々な活動及び地域行事や慣習行事等	肢体不自由児が他子ども達と一緒に参加楽しめる為の工夫(タブレット端末や知育玩具、映像機器等)や運動等を取り入れて事故やけがに留意して行っている	子ども達の見識、見聞を広げる為積極的な事業所外での活動等

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	肢体不自由児に特化している事で殆どの子ども達が車いすやバギーを使用している為、事業所が狭く感じられている。	活動や通所してくれた子ども達の人数に合わせ、併設されている事業所の会議室や体育館を使用している所を見た事がない為	通信誌「えがお」やHP等に他場所にて、ゆとりをもって行事を実施している様子を掲載し発信します
2	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル体制等の保護者への解り易い説明	他業務中に保護者対応と併せて実施した事により説明が雑になってしまい、各マニュアルの主旨が伝わり辛かったように思っています	説明する時間をゆとりをもって設定し対応します。
3	父母の会の活動支援や保護者会の開催により、保護者同士の交流の機会が設定出来ていない。又、きょうだい同士の交流の場を設定しておらずきょうだい同士の支援が出来ていない	時間に都合がつかずニーズがほとんどないので	保護者やきょうだいに聞き取りし、要望が多いようであれば対応します